宇都宮商工会議所
会頭　北村　光弘

年頭にあたって

明けましておめでとうございます。

会員の皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年11月の臨時議員総会におきまして、歴史と伝統のある宇都宮商工会議所・第18代会頭に選任されました。厳しい経済環境のなか、地域経済発展のため新役員・議員とともに、重責を担って参りますので、皆さまのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

さて、日本の社会経済は、一昨年秋のリーマンショック以降、長引く円高・デフレ、人口減少社会の到来、少子高齢化の進行、グローバル化の進展など、これまでに味わったことのない大きな変革の時代を迎えています。さらに、中小企業の方々や内需型産業の企業の方々からは、「仕事がない」「先行きの見通しが立たない」などの深刻な声が聞こえてくるなど、景気の停滞感が一層強まってきています。

このような中にありまして、私は地域の再生なくして、日本経済の再生はないと考えています。今まさに渋沢栄一翁が日本で最初の商工会議所を創設した時の、「商工業者の声を集約し社会に訴える」という原点に立ち返り、商工会議所は地域に不可欠な総合経済団体として、地域経済発展のため、その使命と役割を果たす必要があると考えています。

そのため、商工業者の方々から、経営上のお悩みや地域活性化にむけたご意見などの声を伺い、商工会議所として取り組むべき課題を明確にし、地域経済の浮揚策を図るとともに、賑わいづくりに取り組んで参りたいと考えています。

また、向こう3カ年の事業・運営指針となる「中期事業計画」と「中長期財政計画」を策定し、経営支援や地域の活性化、政策提言や財政基盤の確立など、着実な事業推進と組織運営を行うことで、頼れる商工会議所づくりに粉骨砕身努力してまいる所存であります。

会員の皆さまにおかれましては、今後とも倍旧のご支援・ご協力と商工会議所事業への積極的な参画をお願い申し上げます。

結びに、卯年は若葉が茂ってきた状態を表すともいわれています。皆さまにとって、本年が希望と活力に満ち溢ふれた年になりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

会頭
北村　光弘

副会頭
須賀　英之
藤澤　智
斎藤　高藏
増渕　正二

専務理事
倉持　和司

常務理事
渡辺　政行

理事事務局長
小関　秀明

監事
柿沼　賢
川村　壽文
八城　光男

常議員
青木　利光
大谷　伸
野澤榮一郎
松本　典文
中津　正修
藤井　昌一
半田　芳正
青木　直樹
上野　泰男
瓦井　利宗
関口　快流
高柳　實
福田　治雄
野村　栄治
青木　勲
宇佐美　修
笠原　正人
金　中烈
酒井　淳
若月　章男
赤塚　博実
飯村　愼一
加治　康正
喜谷　辰夫
小島　章利
佐藤　節
仙波冨美雄
辻　裕司
徳永　昭一
林　啓二
若井　勲
仲田　俊夫
辻　博明
中江　勝男
田中　彰
増山　郁夫
清水　史夫

議員
浅野　健志
梅原　英資
里村　佳行
角　一幸
増田　武見
増田　仲夫
武藤　俊夫
村上　芳弘
竹石　俊太
田代　好孝
柴田　恒男
田嶋　章夫
五月女　勉
中村隆一郎
保坂　正裕
坂井　俊司
田野邉大介
長谷川静夫
鈴木　康夫
藤原　宏史
船田　雅弘
高橋　好一
大塚　俊男
菊池三紀男
中島　理
加藤　紀夫
石島　洋
中村喜久美
上野　和夫
柿沼　光子
岡田　昌彦
長谷川　正
廣田　鶴男
入江　操
岡安　規男
片岡　泰三
菊池　茂
篠崎　昌平
神宮　晃
利根川節二
花田　静子
甫立　和也
野口　和孝
安野　真
青柳　勝男
上野　勝弘
助川　通泰
高橋　俊行
深澤　雄一
村田　一郎
森野　良幸
吉村　憲光
横松　宏明
横山　幸子
秋本　薫
朝稲　文江
森戸　義美
安藤　英夫
飯村　悟
青木　忠
岡崎　善胤
木内　裕祐
熊本　勇治
黒川　知祐
佐藤　忠雄
佐畑　浩司
善林　隆充
高久　和男
高橋　和夫
高山　實
生出　栄
星野　隆一
町田　卓大
村上　龍也
村上篤三郎
矢治　和之
谷田部　峻
安齋　幸
石川　秋十
金柿　説生
金田　秀壽
児玉　博利
小矢島重男
坂本　昭一
佐藤　千秋
鈴木　秀明
高橋　啓子
田村　哲男
手塚　基文
伴　靖
保坂　和夫
松沼　光男
水谷　毅
望月　肇
和氣　幸雄

栃木県知事　福田　富一

新年のごあいさつ

商工会議所会員の皆様、あけましておめでとうございます。

私は、知事就任以来、誰もが豊かさを実感できる〝とちぎ〟を創り上げるため、対話と協調による県民中心、市町村重視の県政を基本として、各種施策を推進して参りました。

昨年は、厳しい財政状況の中、自律的な行財政基盤の確立に向けた「とちぎ未来開拓プログラム」の実質的な初年度として、その着実な実行を図りながら、当面の最重要課題である「経済・雇用対策」に全庁を挙げて取り組んで参りました。

一方、少子高齢化の進行と人口減少の本格化、経済のグローバル化、さらには、地球環境問題の深刻化など、私たちは今、時代の大きな変化のただ中にいます。加えて、円高の進行など経済情勢の急激な変動など、県政を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。

県では、こうした社会経済情勢の変化に的確かつ柔軟に対応するため、現在、新しい5か年計画である「新とちぎ元気プラン（仮称）」の策定を進めております。新プランでは、限られた行財政資源を有効に活用するため、選択と集中による施策の重点化を図り、政策の基本に「人づくり」を据え、「暮らしを支える安心戦略」「明日を拓く成長戦略」「未来につなぐ環境戦略」の3つの重点戦略を展開し、「安心 成長 環境 をともにつくる、元気度 日本一 栃木県」を目指して参ります。

平成23年は、北関東自動車道がいよいよ全線開通を迎える年でもあります。近隣県となお一層連携・協力しながら、真の「有名有力県」に向け、私自らも、本県の多彩な魅力を県の内外に積極的に発信して参りますので、皆様のより一層の御理解と御支援をお願い申し上げます。

年の始めに当たり、私の所信を申し上げますとともに、本年が皆様にとって素晴らしい年となりますことをお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。

宇都宮市長　佐藤　栄一

年頭所感

明けましておめでとうございます。

年頭にあたりまして、本年が皆様にとって明るく、幸多き年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年を振り返りますと、長引く景気低迷や厳しい雇用情勢、また、児童虐待や、高齢者の所在不明問題など、暗い出来事が多く、将来へ明るい希望を持ち、安心して日々の生活を送ることや、社会や人とつながることの大切さを改めて実感した年でありました。

一方で、本市におきましては、緊急経済・雇用対策などに取り組んでいる中、経済の回復までには至らないものの、一部の法人には業績が持ち直すなどの明るい兆しも見られました。

こうした認識の下、本年は、引き続き第5次総合計画に掲げた3つのまちづくり戦略プラン「みんなが幸せに暮らせる」、「みんなに選ばれる」、「持続的に発展できる」を基本としながら、現下の喫緊の課題や50年先、100年先を見据えた課題を踏まえ、特に地域の産業・経済を元気にするとともに、中心市街地に賑わいと活気を取り戻し、さらには、将来の成長の担い手である子どもを安心して生み育てられる社会づくりに重点的に取り組み、持続可能な都市を実現し、「愉快なまち宇都宮」を多くの方々に実感していただけるよう、市民の皆様と一丸となって本市の活力を取り戻す年としてまいりたいと考えております。

昨年大成功を収めた中心市街地での自転車周回レース「クリテリウム」は、地元関係者などの理解、協力のもと、長年の夢が叶った瞬間であり、私たちに感動、誇り、そして自信をもたらし、私は、「最後まで諦めないこと」の大切さを改めて実感したところであります。

行政を取り巻く社会経済情勢は極めて厳しい状況にありますが、不撓不屈の信念を持ち、市民の皆様を始め、特に宇都宮商工会議所会員の皆様とともに、人と人がつながり、活気にあふれた地域づくり、まちづくりの実現に邁進してまいります。

〈特集〉
新春×対談

宇都宮の新時代を築く

宇都宮を活性化させるブランドを育てよう!

宇都宮市長
佐藤 栄一 × 北村 光弘
宇都宮商工会議所会頭

新春恒例の、宇都宮市長と当所会頭による対談をお届けします。今回は11月に就任したばかりの北村光弘会頭と、市長2期目でますます腕を奮っている佐藤栄一市長が「宇都宮をもっと盛り上げるには」をテーマに対談しました。

さとう・えいいち

昭和36年生まれ。明治大学法学部法律学科卒業。昭和61年3月から平成16年11月まで北関東観光開発(株)代表取締役。平成9年、(社)宇都宮青年会議所理事長就任。平成12年、(社)日本青年会議所副会頭就任。ほかに、宇都宮商工会議所青年部会長などを務める。平成16年11月28日から宇都宮市長(2期目)。

負のスパイラルが襲う、日本の現状

佐藤　あけましておめでとうございます。

北村　おめでとうございます。本年もよろしくお願いします。

佐藤　昨年は大変な年でした。忍耐強い日本人ですが、こう厳しい時代が続くと、人間が小さくなってしまうような気がします。

テレビも新聞も、先行きが不安、不透明ということしか言わない。だから「将来どうなるか分からないから、なるべくお金を使わないようにしよう」ということになってしまいます。買い物をしても、なるべく安い物、安い物という心理が働きます。だから今日100円だったものも明日は80円にしないと売れない。そんな時代ですよね。

北村　はい。そうですね

佐藤　100円のものを80円で売るために、中小企業は当然、原材料のコストダウンばかりでなく、従業員の雇用面での調整なども行う必要が出てきます。職を失っても、なかなか次の仕事は見つかりませんから、生活保護などに頼らざるを得ません。そういう悪い循環に、日本全体がすっぽりと入ってしまっているように思います。

外国からすれば、日本はまだまだ国民性も勤勉、高い技術力がある国と評価されているんです。だから、要は気持ちだと思うんですよね。気持ちを元気にさせる雰囲気づくりを、国を挙げて行わなくてはいけないと思います。

北村　先日、APECの中小企業サミットに行ってきました。各国から7人の閣僚が出たのですが、日本を含むすべての国の閣僚が「中小企業の活性化こそが、格差と貧困をなくす」とおっしゃっておられました。

私の年代ですとよく覚えているのですが、昭和30年代はまさしく日本の中小企業がどんどん強くなり、昭和40年代半ばには「二重構造」(注　高度成長期に、大企業を中心とした高生産性部門と中小企業の低生産部門が並存していた構造のこと)などの言葉はなくなりました。

しかし近年、グローバル化が進む先進国では、再び「企業の格差社会」が始まっています。特に内需型産業については調整をしないと、将来不安は増大していくと思います。ですから行政と連携をとりつつ、残念ながらうまくいかなかった企業や人の救済についても、取り組んでいく必要があるだろうと感じています。

そういう意味で、今後ますます行政とタイアップしながら、何とか将来不安を無くしていけたらと思っています。

地域の現状を行政と商工会議所で把握

佐藤　今、会頭がおっしゃられたような外需、内需の問題については、そもそも日本は外需をがんばることで経済大国の仲間入りをしてきた経緯があります。ところが近年、その外需が危うくなってきた。そこで気になるのが円高です。リーマンショックの影響がまだ払拭されていない中で、ギリシャの金融不安から、円高が始まってしまいましたから、これにどう対応していくかが大きな問題です。

当然、外需産業に対しては力をつけていただかなくてはならない。ただ、それはすぐにはできません。そこで、その間に内需拡大に力を入れていくことが大切です。そういった現状を踏まえて、日本商工会議所を含む経済団体が、これからどう国に物申していくかについて、地方としても注目しているところです。

一方で、地域においては、市と商工会議所がこれからどう対応していくかということだと思います。特に外需よりも内需に携わっておられる方が、中小企業においては圧倒的に多いですよね?

北村　そのとおりです。

佐藤　そういった方々が、これからも持続できる環境を作っていくことが、今年も重要な課題だと考えています。

そうした中で、中小企業に対する融資の枠を、補正を含めて拡張してきました。来年度の予算でも充分に配慮して、対応していきたいと思います。さらに力を入れていかなくてはと考えているのですが、いかんせん地域の、現場の実情をしっかり受け止めて行わないと、政策を打ち出しても結局はうまくいかない。ですから商工会議所と連携することで、現場の状況や想い、今後の課題などをつかんでいきたい。ぜひお力をいただきたいと思います。

北村　ぜひ一緒にやっていきましょう。よろしくお願いします。

将来を見据える目で、今を活かす施策を

北村　企業人にとって、大きな将来不安というのは、やはり社会保障です。これは、短期では解決できないと思いますが、だからといって百年先に解決しても少々遅きに逸するでしょう。できれば行政でも力を入れて、なるべく早い時期に不安解決をお願いします。

佐藤　はい。その場しのぎの対策ではなく、財政改革も含めて、これからどう街を発展させていくかも考えていかなくてはなりません。この部分は、百年単位のスパンも考慮しないといけないと思っています。

そうは言っても、2050年には宇都宮市は、3人に1人が65歳以上になってしまいます。当然、年金も医療費も現在以上に膨れ上がってしまう。

一方、税収は落ちています。今後税収が上がるかどうかは景気に左右される面もありますが、全体的には今後人口が減るわけですから、決して安心はできません。

税収の減少、人口の減少、高齢化率の上昇。その中でしっかりと行財政改革を行い、しっかりとした足腰を作り、そして限りある予算を効率よく使うことが、重要だと思います。宇都宮の税収としていただいたお金を、宇都宮に還元していくことが重要です。

きたむら・みつひろ

昭和17年生まれ。慶応義塾大学法学部法律学科卒業後、横倉本店(株)に入社。平成12年から同社代表取締役会長を務める。平成19年から宇都宮商工会議所副会頭を務め、平成22年11月に第18代会頭に就任。ほかに公正取引委員会独占禁止政策協力委員、宇都宮卸商業団地(協)副理事長など多数務める。

「○○すれば愉快だ宇都宮」と、宇都宮の良さをアピールするポスター

それと、ネットワーク型コンパクトシティの実現を目指しています。都市拠点としての中心市街地や地域の核となる複数の地域拠点など、各拠点の機能性を高めて集積を促進していきます。また、皆さんがお住まいになっているそれぞれの地域には、銀行、郵便局、福祉施設、スーパーマーケットなど、日常生活に必要な機能を整えていきます。　そしてそこに地域内交通を導入して日常の足を確保する。さらには、拠点や地域間を、地域内交通や路線バス、鉄道などの公共交通でネットワーク化して、宇都宮市内ならどこにでも行くことができるようにしていきたいですね。

これが実現すれば、都市の魅力、活力が向上し、高齢社会にも対応でき、企業誘致にも有利に働くと思います。住みたい人も増えてくるのではないでしょうか。

よいところをどんどん「宇都宮ブランド」に!

北村　宇都宮市は首都圏にも近く、大変恵まれたところだと思います。

佐藤　そうですね。

北村　そのいい街を、自分の街は自分で守り育てるように、地域の人や企業にも意識付けできると、いいですね。

佐藤　宇都宮プライドの一環で打ち出している「住めば愉快だ宇都宮」。これをぜひ商工会議所の会員の皆さんにも浸透させていただきたいですね。「住めば」の部分をアレンジしていただければいいと思うんです。「飲めば愉快だ」とか（笑）、どんどん変えていっていただければいいと思います。

今でも「耕せば愉快だ」「食べて愉快だ」など、どんどん出来つつあるところですので、企業の皆さんのお力を借りて、さらに大きな運動にしていきたいと思っています。

北村　面白いですね。ぜひ協力してやっていきましょう。

佐藤　昨年10月23日・24日に開催された、アジアで最高位の自転車レース「ジャパンカップ」。今回は、初めての試みとして、中心市街地を舞台にレースを行う「クリテリウム」が開催され、3万人を超える観客が集まりました。もともとジャパンカップ自体にステータスがありますから、世界の超一流選手が参加していますから、その人たちがクリテリウムにも参加しましたので、世界中の注目を集めたんですね。

それから本年3月19日に、北関東自動車道が全面開通を迎える予定です。

北村　商工会議所としても大いに期待しているところです。これを最大のチャンスにしたいところです。

佐藤　怖いのは、栃木県が通過点になってしまうことです。せっかくのインフラですから、恩恵を受けられるようにしなければ。

北村　行政と商工会議所、それに企業が力を合わせて、活用を考えることが重要ですね。

佐藤　例えばイベントを行う場合に、県や市町と商工会議所、商工会が一緒になって、イベントを盛り上げていくとか。それも1年に1回ではなく、主催を変えながら、何度もイベントを打っていく。そういう発想が大切なのかなと感じています。そのあたりのコーディネートを、ぜひお願いします。

北村　そうですね。このチャンスを掴めるかどうかは、私どもがいかに努力するかにかかっていると思います。

佐藤　物流面でも大きく変わるでしょうね。高速道路を使うと、輸送時間もかなり短縮されますから、積極的に外へ出ていけると思います。特に宇都宮は中間地点なので、場所から見ると良い環境にあると思います。また両毛地区は大変な人口密集地区ですから、そこのビジネスチャンスも拡大すると思います。

イベントを成功させることで活性化に

北村　先程、市長がおっしゃったクリテリウムは、経済効果も大きかったですね。市長ご自身も、最後に走られましたが。

佐藤　（笑）第一回目だったので、とにかく安全に実施したいというのが一番でした。PRが足りなかった部分はあったのですが、それでも3万人もの方が来てくださったのは、うれしい誤算です。今年以降どうするかは、ご協力いただいた交通事業者や警察、地元の方々などと協議をしなければいけないのですが、ぜひ続けたいですね。また、やるからにはもっと経済効果の上がる仕掛けをしていかなくてはいけませんね。

北村　私どもが市と一緒に運営している「宮カフェ」が、あの日大変に売上が良かったのです。また他商店なども同様で、売上が上がったという声を多く聞いています。だから、人が集まればやはり経済効果はハッキリと出るんですね。

昨年10月23日に行われ3万人を集めたクリテリウム

佐藤　そうですよね。ああしてすごく多くの人が来るんです。毎日イベントを打つことはできませんが、今回のクリテリウムや、恒例のミヤジャズイン、餃子祭り、宮の市などの効果的なイベントは、官民挙げて続けていくことが必要だと思います。

北村　昨年のプロバスケットボールチーム「ブレックス」の優勝パレードは、私どもの青年部が中心になり、行政の方々などにもご協力いただいて、ごく短い期間で実現させ、大成功でした。ああいった連携を、よりスムーズに実現させたいと思います。

佐藤　イベントを盛り上げたり、中心部に実際に住む方が増えることで、宇都宮のまちなかはよみがえって来るのではないでしょうか。

中心市街地で宇都宮の情報を発信する「宮カフェ」

昨年4月17日に行われた、プロバスケットボールチーム「ブレックス」の優勝記念パレード
（黄色ジャンパーが当所青年部メンバー）

今年はよりよい年にしていきましょう!

北村　地方都市で一番を目指さないと、なかなか人が来てくれませんから。

佐藤　二番じゃダメですね（笑）。

北村　（笑）そのくらいの気概で努力しないと、なかなか抜きん出ることはできませんね。そういう努力を、今後さらに焦点を絞って、がんばっていきたいと思います。

佐藤　宇都宮に活気が出ることだったら、どんどん協力してやっていきましょう。

北村　商工会議所では昨年、渋沢栄一を取り上げて、経営を学ぶ事業を行いました。こういう時代だからこそ、原点に戻って自分たちを見つめ直してほしいというのが、私たちの考えでした。

佐藤　同じ栄一つながりですね（笑）。たいへんよい試みだと思います。

北村　ああいった試みでも、やはり活性化につながると思うんですね。

佐藤　まちづくりには方程式はありませんから、とにかく続けることが重要ですよね。失敗しても次、次と続けていく。それが実を結ぶのだと思います。

北村　いや、今日は本当に有意義でした。最後に、今年の抱負をお願いします。

佐藤　今後もより一層厳しい時代になっていくと思います。地方分権・地域主権をさらに進めていくために、百年先を見据えてどう宇都宮のまちづくり、地域づくりを進めていくか、改めて原点を見直しつつ、景気も下支えしながら、行政として打って出たいと思います。先ほど申し上げましたとおり、商工会議所をはじめ企業やNPO、ボランティアなどの力もお借りしながら、市民協働の中で進めていきたいと思います。よろしくお願いします。

北村　商工会議所の原点は「地域経済と会員企業の発展」ですから、その原点に立ち返って、役員・議員・職員が一体となって、一生懸命やりたいと思います。今まで以上の応援をお願いします。

本日はありがとうございました。